

明日へ向かって駆ける

農業法人の経営者は語る

農事組合法人「せんごく営農組合」代表理事

藤原 守さん

「担い手の高齢化が進む中、地域農業を守る要として皆さんの思いを集め、法人を立ち上げた。荒廃農地を絶対に出さないという決意だ」と力強く語るのは、宮津市養老地区の農事組合法人「せんごく営農組合」代表理事の藤原守さん(70)だ。

同地区は丹後半島の東部に位置し、若狭湾に面した農漁村地域。9集落が存在する。圃場(ほじょう)整備が完了して大規模となった農地を守っていくことと、外垣、岩ヶ鼻、長江、大島の4集落で「養老地区農業生産組合」を設立。水稻育苗をはじめ

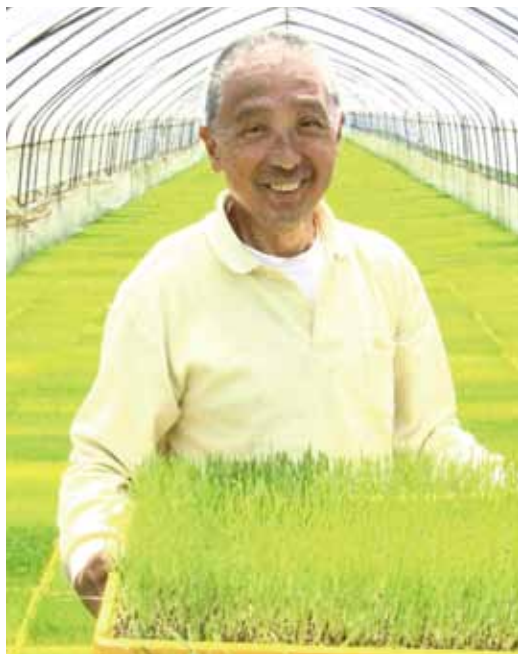
め、田植えや稲刈りなどの基幹農作業を受託してきた。こうした活動が評価され、2006年度の府農林水産業功労者表彰で知事賞を受賞している。

しかし「農作業を受託するだけの任意団体では、地域農業を守っていくのは難しかった」と藤原さんは振り返る。そこでJ A京都などにも相談し、農地利用の権利主体となれるよう、法人化を決定。地域で話し合いを

重ね、11年4月に農家50人が参加し法人化。藤原さんが初代代表理事に就いた。

法人名の「せんごく」は、同地区のシンボルである千石山のように、雄大に地域を見守っていきたいという思いから名付けた。

地区内13社の農地のうち、4社は同法人が直営する。水稻栽培の他、ハウス4棟でキャベツやハクサイなどを採種し、J A



▶ 水稻育苗に取り組む法人代表の藤原さん

へ出荷する。また、J Aの委託で水稻苗「コシヒカリ」2000枚を育苗し、農家配達まで請け負う。残り9社は、田植えや稲刈りなどの受託作業を

行い、地区内の全農地を守るという徹底ぶりだ。

藤原さんは「これからは、米中心の経営は厳しい。新しい作物にも挑戦していく」と意欲的だ。今年からJ Aが特産化に取り組む「京新清水唐辛子」を10坪で導入。「猿による農産物被害に悩まされているが、トウガラシで被害が少なくなることを期待している」と話す。「この地域の高齢化は著しく、法人の経営者を確保するにも苦労している。しかし、法人が元気で活躍すれば、定年退職者が経営参画してくれるだろう。養老の地域も農業も元気になると考えている。そのためにも頑張っていく」と今後の展望を語った。

法人所在地 宮津市外垣31の1、(電) 0772(28) 0937(藤原さん宅)。

法人概要 2011年4月6日設立。理事5人、監事2人。農繁期にはパートタイマーを雇用。農機はトラクター・コンバイン各2台、田植え機1台、色彩選別機1台、乾燥機4台。

地域の農地必ず守る